

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみの家		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	平成27年9月 28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JivgoVoCd=3370203030-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個人を尊重しその人らしく生活できるように援助する」を理念に、入居者様の意思を尊重し、その方一人ひとりのペースに合わせ、尊厳のある暮らしが出来るように支援しています。入居者様はいつでもデッキに出て外気浴や散歩ができる環境です。また外出行事を企画して外食にも出掛けています。音楽療法やアニマルセラピーを行い、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしたり、動物に癒される時間も提供しています。職員は院内、院外研修会等に積極的に参加しています。また1年に2回、職員の人事考課面接を実施し、個々に目標を設定し質のよいサービスが提供できるように、向上心を持って取り組んでいます。隣にえんさこ医院があり、いつでも24時間対応可能です。日常の変化に素早く対応できるので、入居者様、ご家族様も安心して生活が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景の一角にホームは位置し、静かで風が心地よい。少し広い通りへ出ると店が点在していて、外食先を探すのにも苦労しない。入居者は洗濯物を畳んだり、隣のユニットに出掛けたりと、それぞれ自然に、思い思いに生活を送っている。音楽療法では回想法も取り入れ、歌を謡い、楽器を演奏する。年々腕前もあがり、クリスマス会での演奏会は盛り上がった。ウッドデッキに住んでいる柴犬と、週1回遊びに来るトイプードルは、犬好きな入居者を和ませる。家族と職員との関係も良好で、入居者にとっては何よりである。職員同士も何でも言い合える関係が出来上がっており、お互い声を掛け合いながら、明るくてきばきと介護に携わっている姿が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に、職員が理念を唱和している。年2回接遇ディスカッションを行い、理念がケアに反映されているかどうか振り返りをしている。また月間の目標を決め同じ理念を持って取り組んでいる。	理念に添った介護ができるよう、話し合いにより、具体的な月間目標を決めている。理念と月間目標は目につきやすいところに掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など道行く人に気軽に声をかけ、挨拶をしている。また庄ふれあい祭りなど地域の方との交流を行っている。大学や専門学校の実習生の受け入れをしている。	四月から入居者と共にやってきた愛犬を通じて、散歩等の折に、近所の方とのふれ合いが深まった。庄ふれあい祭りではゲームコーナーを出店し小学生と交流したり、夏には中学生のボランティアの受け入れも行った。	認知症カフェを開く等、地域への啓蒙活動も果たしている。さらに一歩進んで、地域の拠点となるよう、またそこから継続的なボランティアが生まれるような支援を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し、地域の方々への参加も促している。また「ほほえみの家だより」の新聞を発行したり、ホームページ上にて生活の様子を公開し、更新している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、民生委員、ご家族様、入居者様、管理者等が出席し2ヶ月に1回実施している。ご家族様の意見も多くあり、サービスの向上に活かしている。	家族も順番に参加し、事業所の様子を知る良い機会となっている。特に年2回は家族会との併催となっており、多くの参加がある。今年度から他のグループホームへ参加をお願いし、情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から事業運営などについて、相談し助言を受けている。また地域包括支援センターの方よりアドバイスも頂いている。	連絡協議会の研修に参加するなど、常に良い関係が保てるよう努めている。地域包括支援センターの方が運営推進会議に参加し、情報を色々提供してくれる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行った。また身体拘束ゼロのハンドブックを解説し、職員の意識を高めている。正面玄関は鍵をかけない対応をしている。職員の見守りを強化し、自由な暮らしが出来るように支援している。	現在拘束の事例はない。言葉かけについても研修を行っており、日常の業務の中でも、気になることがあれば随時注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	院内研修でDVD鑑賞をもとに虐待防止の勉強会を行った。虐待の自覚のないことの危険性を感じた。高齢者の尊厳と人権を思い、日々業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修として、成年後見制度について勉強会を開催した。学びが活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアに関する考え方や取り組みを丁寧に説明している。又改定や利用料の値上げを行う場合は、個別にご本人様、ご家族様に説明を行い納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族会の際にアンケートをとっている。運営推進会議やご家族様の面会時にも要望などを聞いている。ご意見箱を設置したり、入居者様からの要望は日常の会話から拾い上げ対応できるよう努めている。	面会は多く、その際にはしっかり話を聞くように努めている。毎年クリスマス会の際にはアンケートを実施し、意見は真摯に受け止め、今後に生かしている。家族は大変協力的である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に2回職員の個人面談をして、意見を聞き入れている。また日頃よりコミュニケーションを図り、お互いが何でも言いやすい関係を築くように努めている。	職員の年齢層は幅広いが、互いの良い所を認め合い、取り入れていこうとする姿勢が見られ、何でも話しやすい関係が築けている。月に1回、ユニット毎のカンファレンスを実施し、活発な意見交換が行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎朝の申し送りやカンファレンスに参加している。職員の現場の状況や変化なども把握している。常に施設にとって良い方向に反映されるように就業環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は必ず1年に1回、全職員が受講している。研修レポートと資料を一緒に提出してもらい、スタッフ全員に回覧している。院内研修は一人でも多くの職員が受講できるように勤務人数に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者連絡協議会やGH協会での研修に参加し情報交換を行いお互いに向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とは事前面談をして生活状況の把握をしている。また困っていることや不安なことに寄り添い、小さな事でも真剣にお聞きし、安心して頂けるように、コミュニケーションを密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話に、しっかり耳を傾け、その気持ちを受け止めながら、一つ一つ解決していけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所で出来ることは可能な限り、対応させて頂いている。また必要に応じて他のサービス機関につなげる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の力を借りながら、お互い助け合える人間関係作りに努めている。全職員は入居者様は人生の大先輩であるという考えを持ち、常に感謝の気持ちを忘れず、「ありがとう」の感謝の言葉を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ゆっくりお話ができるように、居室へご案内しお茶をお出しする等の配慮をしている。また入居者様の日常生活や健康状態の報告をご家族様へお伝えしたり、月に1回、手紙を送り、ご家族様との情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも、来ていただけるように声を掛けている。ご家族様との連携を図りながら法事、墓参り、お盆、お正月の外出が出来るように支援している。	入居以前から楽しんでいた卓球を続けたり、愛犬と共に過ごされている方もある。年賀状や暑中見舞いを出したり、電話を掛ける支援も続けている。家族とともに自宅へ帰られることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カルタ取り、カード合わせ、パズル、体操等、みんなで楽しく過ごす時間を、レク活動に取り入れている。コミュニケーションが困難な方にも、職員が間に入り、他者との交流が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談に応じています。サービスの利用が終了された場合は、必要に応じて情報提供書やこれまでの経緯やケアの対応などを伝え、連携をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様からの要望の聞き取りを行い、カンファレンス等で話し合いをし職員のケアの統一を図る。意思疎通の困難な方は表情やしぐさ等で読み取り、相手の気持ちになって考え対応している。	普段の会話から、本人の気持ちを引き出すよう努力している。表出の困難な方については、生活の中で、表情等からくみ取っている。それぞれの趣味が継続できるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや生活暦など入居に至るまでの状況を把握し、日々の関わりの中で、プライバシーに配慮しつつ、さらに具体的な情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや朝・夕の申し送り等で一人ひとりの生活の様子や過ごし方、動作から感じ取り、ご本人様の全体像を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンスを行っている。代表者、看護師と共に意見交換をしながら、ケアプランの見直しをしている。ご本人様やご家族様の要望もお聞きしケアプランに入れている。	毎月1回、全員のカンファレンスを行っている。家族と入居者との会話の中から要望をくみ取る事もある。状況の変化に応じて、随時計画書を作り替えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に入居者様の身体状況や観察、気づき等を記録している。また重要申し送りノートや医療ノートを活用し、職員間での情報を共有している。ケアプランの評価や総合評価も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時は、必要に応じて、往診・受診を行う。またご家族様や環境の変化に弱い認知症高齢者の状況を考慮し、入院せず、訪問看護ステーションとの連携を密にして柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員、民生委員の方の活発な意見により地域の情報交換が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医で行っている。ご本人様、ご家族様の希望があればその病院へも受診している。訪問歯科も対応できるように支援している。	協力病院以外や他科受診については、基本的には家族にお願いしている。隣接の病院へ、リハビリや電気治療に行かれる方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日の入居者様の健康状況経過を記録し看護師に毎日、報告している。また一週間に一度、訪問看護師による健康チェックを行っている。相談や助言も、しやすい環境である。24時間対応で早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、医療機関に情報提供書を渡し情報を伝える。入院中は、ご家族様や医療機関との連絡をとり情報交換をしながら退院時の支援を行っている。またお見舞いをしてご本人様の状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時に医療や看取りの説明をしている。終末期についての意思確認書を作成している。意向があれば、院長、看護師、職員との連携を密にしながら、安心した最期が迎えられるように取り組んでいる。その都度、家族に連絡をして確認をしながら支援している。	入居時に希望を確認しているが、状況に応じ、その都度医師や看護師と共に話し合っている。「最期までこちらで」と言われる方が大半である。24時間、医師や看護師が対応してくれるので、職員も安心して臨むことができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成して周知徹底している。ミーティングなどで見直しを行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。入居者様、ご家族の方も一緒に参加した。消防署の職員立会いで地震や水害時の訓練を行い指導を受けた。	年2回の防災訓練には家族が参加することもある。現在、近所の方の参加はないが、自宅に出向いて協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に個人情報保護の守秘義務の誓約書を受けたり、社内情報の流出には十分注意し、常にご本人様の気持ちを大切に、相手の立場になって対応を心掛けている。	声掛けにはいつも注意を払っている。特に拒否の強い方への対応については、本人の人格を損ねることのないよう、普段から職員同士情報を交換しながら、介護に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に決めてもらえるように働きかけをしている。一人ひとりの状態に合わせて答えやすい方法を心掛けている。また職員が押しつけることのないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その方に合わせた対応をし、ご本人様の要望や希望はないか尋ね、個人にあった時間が過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度は自分でタンスから衣類を出して好きな服を着て頂いている。また何種類か用意し選んで頂く。髪を整えたり、髭そり、口、目脂等に気をつけ身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な料理や盛り付け、おやつ作り、後片付け等を入居者様と一緒にしている。食事は職員と一緒に同じテーブルで食べている。楽しく食事が出来るように雰囲気づくりも大切にしている。	業者からメニューと材料が宅配され、職員が交代で調理をしている。入居者や職員の希望で、独自メニューに切り替えることもある。月に1回は外食にも出掛けており、入居者も楽しみにされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病等に応じて食事量・水分量の調整を行い摂取量を把握して記録している。個々に食事の形態を工夫しながらその方に食べやすい物を提供している。また食べるペースの遅い方も、ゆっくりと食事が摂れるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っている。自分でできない方は、一人ひとりの状況に応じて、声かけや介助を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンに合わせ、定期的にトイレ誘導をしている。紙パンツやパットも個々に応じたものを使用して頂き、見直しを行っている。	一人一人の状態に合わせて、排泄介助を行っている。ほぼ自立であるが、本人が気になるので紙パンツを使用しているというケースもある。二人介助が必要な場合でも、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、ヨーグルトや牛乳等の飲み物を勧めたり、水分補給や食べ物に気をつけている。適度に身体を動かす、体操や、散歩などの働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できるようにしている。入浴剤を入れたり、湯温もご希望に添えるように配慮している。ターミナルケアの方には簡易浴槽にて入浴をしている。	入浴支援を一对一で過ごせる、ゆったりとした時間と捉えている。入居者もリラックスして、色々と話をしてくれる事も多い。拒否の方には時間や日を変えて、声掛けにも工夫して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のリズムが保てるように、ソファや居室で休んで頂く等、個々に合わせた対応をしている。夜間なかなか眠れない方には、温かい飲み物を出したり、お話をして落ち着いて頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりにお薬手帳がある。また薬の効能、副作用等の説明書をファイルに保管して常に確認できるようにしている。薬の変更があった場合は、医療ノートの申し送りなどで、変化を確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、食器拭き、食事の準備、花の水やり、ゴミ捨て等、その方の得意分野を活かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換が出来るように散歩や外気浴にお誘いしている。定期的に毎月、お出かけプランを入居者様と一緒に計画している。行きたいところへ行ったり、外食やお弁当を持ってお花見会を開催している。またご家族様と一緒に外出され、食事をして帰られることもある。	近所の買い物やゴミステーションまで一緒に歩いて行ったり、近回りの散歩は日常的に行なっている。月1回の外食の折には、近くの行楽地や季節の花を見に行ったり、懐かしい場所をドライブする事も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金を預かり、買い物に行く時は、ご自分で支払って頂けるように手助けをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出す為の支援や、日頃の楽しい出来事をスケッチブックに書き留めて、面会時にご家族様にお話できるように手助けをしている。また電話は、ご希望があれば、いつでもかけて頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画、絵画、季節の生花を飾るなど、生活感を感じて頂けるように気配りをしている。入居者様に馴染みのあるものを生活の中に取り入れている。	天井は高く、天窓があり、リビングは明るく、広々と感じられる。入居者の作品や季節の飾り物がほどよく壁面に配されている。天気の良い日は、ウッドデッキで昼食やおやつを楽しむ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや正面玄関にソファを設置している。デッキには机や椅子を置いて、いつでも、好きな時間に仲良しのお友達とお話出来るように、環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物を、持って来て頂いている。家族の写真を貼ったり、アルバムなど置いている。	パッチワークや押し絵など、自身の作品を部屋に飾り、愛用の家具を持ち込み、自分らしい部屋が出来上がっている。表札もそれぞれに工夫されていて楽しい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室やトイレを迷わないように、表札や貼り紙をかけている。ホール、トイレ、風呂場の手すりは身体状況に合わせて手すりを設置している。正面玄関や西裏口をスロープにし、入居者様が移動しやすいように、安全に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030		
法人名	有限会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみの家		
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1		
自己評価作成日	平成27年9月 28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouvoCd=3370203030-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で理念の唱和を行い、能力開発カードで各自目標を設定し、自己評価と面談を行うことで管理者と職員が共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている、庄ふれあい祭りに参加したり、地域の奉仕活動として倉敷市一斉清掃に参加している。また、グループホームで飼っている犬に散歩中の方が声をかけて下さることで、会話が弾んだりして地域の人々と交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回のホームページ作成にてグループホームの様子について情報発信している。ほほえみだよりの新聞の発行、認知症カフェの開催を行い地域の方々に認知症の方の理解を得る努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括センター、ご家族様、入居者様、グループホーム管理者等が出席し2ヶ月毎に実施している。グループホームの実情やサービスの取り組みを報告し、意見や要望を頂きサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ地域包括センターの方が出席して下さり情報の共有とアドバイスをして頂いている。倉敷市の担当者の方には、制度の事等わからない事項があれば相談を行い信頼関係の構築を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ行っており、日中は開放している。散歩や買物等の外出を希望される入居者様には同行させて頂いている。カンファレンスの際に身体拘束についての勉強を行い正しい理解をした上でケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の院内研修を行い、参加できない職員にはDVDを視聴してもらって周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回内部研修で成年後見制度等に関する研修を行っている。ご家族様に情報提供を行い活用につながるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様が理解・納得できる様に十分に時間をかけて説明をしている。また、不安や疑問点等がないか、こちらからお尋ねするようにしており、その上で書面にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し改善に役立てている。また、家族会や運営推進会議でご家族の方と地域包括センターの方や民生委員の方とお話をする機会があり、ご意見ご要望を運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勉強会、朝の申し送り等を通じて意見や提案を聞く機会を作り、運営に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、朝の申し送りやカンファレンスに出席すると共に、各種行事に入居者様・ご家族様・職員と一緒に参加して実情を把握し職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修は月1回開催している。院外研修は年1回参加するようにしている。両研修とも報告書の作成を義務づけており、職員の力量を把握するとともに更なるケアの向上推進を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が倉敷市介護事業者等連絡協議会・GH協会等主催の研修会に参加し同業者と交流し、より良いサービスの提供が出来るよう取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に話し合いを行うと共に、事前資料を職員が周知し入居者様がグループホームの雰囲気馴染める様に見守りの期間を設け安心して生活して頂けるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問させて頂き、ご家族様の要望・不安・困っている事等、お話しを伺う時間を十分に取ることで、ケアにあたり信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態・状況等のお話をお伺いし、必要なケアを見極め導入している。導入後は適切な支援となるよう努めている。必要と思われる場合には他のサービスの提案もさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切に、日々の生活の中でも、共に笑い、会話を楽しみ共感し、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日常生活の様子や健康状態の報告を行い、毎月手紙による近況報告も行っている。家族会（お花見・クリスマス会）等には、ご家族様の参加を呼びかけ、共に楽しむ場を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にお友達とされていた卓球の練習に入居されてからも毎週1回参加されている。近所の方々が気軽に足を運んで頂けるような温かい雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係に気を配り、気が合わない方の座席を工夫している。できるだけ多くの入居者様が一緒にできるゲームをしたり家事手伝いを偏らないように配慮してお願している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談等があれば情報を共有し、これまでの入居者様のケアの経過やケアの対応をお伝えし、ご家族様との関わりを持つようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り入居者様の声に耳を傾け、可能な限り一人ひとりの趣味や意向の把握に努め入居者様本位の生活となるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様・ケアマネジャーよりお話を伺いフェイスシートを作成し、職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活状況を、申し送りノートや医療ノート、個人記録に細かく記入を行い把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のカンファレンスの中でご家族様の要望や一人ひとりのケアについて職員全員で情報交換を行い、ケアの統一が図れるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での小さな気付きや、ご本人様の言葉等細かく個人記録や経過記録・申し送りノートに記載し、入社時に確認を義務づけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科受診や皮膚科受診等ご家族様が付き添えない時は職員が代わりに対応している。愛犬と一緒に入居された方に代わって1日二回散歩に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員の方との話し合いの中で情報を得たり、地域の祭り・公民館での催し物を把握し入居者様に適した場所を選択しながら外出等を行い安全で豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回のえんさこ医院への受診、随時の往診に加え、ご本人様・ご家族様の希望するかかりつけの病院へ受診をして頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション(よつ葉)の方が月4回定期訪問して下さっている。緊急時には必要な情報を伝えたり相談を行い入居者様が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な情報を提供し、居室に籍を置いておける最長の期間を伝え、その間に戻ってこれるように病院と連携を図っている。最低1回はお見舞いに行き、ご本人様の状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針や看取りに関する指針を定め、ご家族様に説明し同意を頂いている。又、主治医との話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成しており、ミーティングで見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時のマニュアルを作成している。年2回、毎回出火場所を変えて、避難訓練と消防訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月間目標を設定して、職員全員が入居者様の人格を尊敬し尊厳を守る配慮ができるよう努めている。トイレ誘導時は小声で声掛けを行ったり、居室に入る時はノックと声掛けを行ってプライバシーにも配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自由にご自分の意思を伝えたり感情を表したり出来るように、一人ひとりの性格に合わせた声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・体操・犬の世話・歌・作品作り・折り紙等、一日の生活の流れ以外の過ごし方は、入居者様の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の長さ・色、化粧、その日に着る衣類の選択等は入居者様の希望を聞き、その人らしいおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのおやつを入居者様と一緒に作ったり、焼きそばと一緒に焼いて頂いたり、お寿司を混ぜて頂いたりして、匂い・味・手間を全員が共有できる工夫をしている。毎食後、食器拭き・お盆拭きのお手伝いもして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の種類を増やし、好きな物を飲んで頂けるようにしている。食事量と水分量のチェックを行い適切な栄養摂取と水分確保が出来るよう努めている。食事形態もキザミ食・ミキサー食等に行っている。糖尿病がある方の為に御飯量の調節と低カロリーのおやつ提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声掛けを行っている。義歯のない方は、口腔ケア用ティッシュでケアを行っている。週1回義歯洗浄・夜間の義歯預かりを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を行い、プライドを傷つけないように声掛け、誘導を行っている。常時おしめの方もトイレでの排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩にお誘いしたり、ホール内や隣ユニットまで手引き歩行をして頂いたり、各種のお茶や低カロリー飲み物を摂取して頂いて水分摂取量の確保を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望される時間帯の確認を行い、出来るだけ希望に添えるようにしている。入浴剤を希望される方には使用を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や散歩、デッキでの犬とのふれあい、家事手伝い等、日中の活動を増やし夜間安眠して頂けるよう工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの処方箋やお薬手帳があるのでいつでも確認することができる。薬の変更があった場合は医療ノートに処方箋を添付し目的や副作用、用法用量の理解の徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	押絵・木目込み・習字・塗絵・折り紙・薔薇栽培等の趣味の支援、食器拭きやお盆拭きテーブル拭き等の家事手伝い、犬の世話等、ご本人様の得意とする事や活躍できる場を見つけ日々楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や外気浴を行っている。ゴミ捨てに同行して頂いた時には少し遠回りをして散歩をして頂いている。ご家族様の協力で毎週外出されている入居者様や在宅で生活されていた時の近所の方と毎週卓球をする為に外出される方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお小遣い帳で管理している方と、ご家族様の同意のもと、ご本人様の希望に沿って現金を持っている方もおられる。入居者様の希望があれば買い物や散髪でお金が使えよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から電話をしたいとの申し出があれば自由に電話して頂いている。暑中見舞いや年賀状の送付も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは清潔を心がけ、居心地の良い空間を演出できるよう入居者様の作品を飾ったり、花を置いて季節を感じて頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの座席は気の合った方同士となるよう配慮している。又、デッキやソファ、テーブル等を活用し好きな場所で過ごして頂けるよう環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの品々や家具、写真等を持ってきて頂いている。ご本人様やご家族様と相談しながら居心地のよい部屋となるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわかるように名前を掲示したりトイレには「使用中」の札を掲げている。居室内は状況に応じてタンスやベッドの位置を変更し安全で自立した生活ができるよう取り組んでいる。		